

中島一周の散策行う 参加者自然を満喫

自 然に親しむつどいの第1弾として6月3日(日)教育委員会が主催して、中島散策が行われました。
コースは、以前あった巨木をすぎて、そのまま岸辺を歩く約10kmの道のり。
当日は、21人が参加して、洞爺ガイドセンターの飯田氏が絵などの資料を駆使して案内。途中風洞や鹿の生態などの話を聞きながら、晴天となった中島を楽しみながら散策しました。



ガイドの説明を聞く参加者

虻田小6年生 車いすの福祉授業実施

6 月1日(金)、虻田小学校で、総合学習の一環として、「これからの福祉について考えよう」をテーマに授業を実施しました。行ったのは、同小の6年生の2クラス60人。
当日は、社会福祉協議会の事務局から講師を招き、講話の後、車いすを使つての実践的学習が行われました。
児童たちは、2人1組で車いすの操作を行い、特に段差のあるところでは、力まかせではなく、小さい力でも操作方法で乗り越えられることを学びました。



こわごわと車いすを押す児童

新町誕生後初の少年の主張大会 力強く思いを発表

6 月7日(木)、少年の主張大会「が洞爺湖町青少年健全育成連絡協議会が主催して、虻田中学校で行われました。人への思いやりや人とのかわりあい方について学ぶことを目的に実施。
虻田中、洞爺湖温泉中、洞爺中学校から選ばれた6人が、次々と登壇し、虻田中学校の全生徒の前に、命の大切さや部活動での出来事、家族愛について、堂々と主張しました。
審査の結果、「消えていく小さな花」を発表した、藤川由加利さん(洞爺中3年)が最優秀賞に輝きました。



力強く思いを発表する藤川さん

温泉小1・2年生 ヒメマス等の稚魚を放流

6 月6日(水)洞爺湖温泉小学校の児童が、洞爺湖漁業協同組合(篠原功組合長)の皆さんの指導の下、月浦の岸辺から、ヒメマスとサクラマスの稚魚5万匹を放流しました。
当日参加したのは、同小学校1、2年生の合わせて20人。
児童たちは、昨年の9月から10月頃に採卵して育ててきた5cmほどの稚魚を、バケツからプラスチックのカップに移し替え、「おおきくなってね」と願いをこめて、そつと放流。成魚になって帰ってくるのを楽しみにしていました。
組合では、1年間に約10万匹放流していて、およそ4年くらいで成魚となるそうです。



稚魚を放流する児童たち

まはる